

## 2024年5月23日所長会見 所感

- 本日私からは3点お話しさせていただきます。
- 1点目は、燃料装荷後の健全性確認の状況についてです。  
お手元の資料をご覧ください。
- 5月21日までに原子炉圧力容器の漏えい確認と、緊急時に制御棒を挿入して原子炉を停止させるための機能を確認する、スクラム検査を終えており、正常に機能することを確認しました。  
現在は、原子炉格納容器の蓋を閉じる作業も終わったところです。
- 今後、準備が整い次第、格納容器漏えい率確認、非常用炉心冷却系機能などの確認を行ってまいります。  
主要な健全性確認の後、閉めておくべきバルブや弁が閉まっているか、必要な電源が入っているかなどの全体的な確認を行う予定です。
- 引き続き、工程ありきではなく、気づきがあれば立ち止まり、関係者で状況を共有し、安全性を確認した上で、作業を進めてまいります。
- 2点目は、今年4月より原子力改革監視委員会の委員になられた、チャールズ・カストー氏によるレビューについてです。
- すでにお知らせ済みですが、カストー氏には、5月13日～17日にかけて、発電所の安全対策工事の状況、運転員の訓練、緊急時対応訓練などをご確認いただきました。

- 17日の緊急時対応訓練では、2月の緊急時演習において課題としてあげた、本社から原子力規制庁への情報提供に関する対応として、発電所では、COPと呼ばれる共有ツールに、迅速かつ正確に入力することに努めました。
- その点について、カストー氏からは「COPを正確に作る努力をしており、コミュニケーションの課題を修正して、より良くしようとしていた」とご評価いただきました。
- そのほか、発電所の状況をご確認いただく中で、「再稼働に向けた準備は順調に進んでおり、発電所の安全レベルは非常に高いところに達している」、との心強いお言葉をいただきました。
- 様々な知見を持つカストー氏からこのようなコメントがいただけたことは、発電所の目指す姿の2つ目と3つ目の柱について、私が納得すると判断するための材料の一つになったと感じております。
- ただし、「常に落ち着いて冷静に作業を進めること」、「常に継続的な改善を怠らないように」とのご意見もいただいております、これまでの取組が一過性のものとならないよう、継続的な改善に努めるとともに、一步一步着実に進めてまいります。
- 3点目は、核物質防護事案に係る改善措置評価委員会の第3回会合についてです。  
お手元にお配りしている取材案内にあるとおり、5月30日に第3回の会合を行う予定です。
- 本委員会は、「核物質防護に係る改善措置を一過性のものとしなない取り組み」について、外部の客観的視点から、ご確認いただいているものです。

- これまでの会合において、モニタリング室の活動やルールの改定など、取り組みの仕組み自体は出来上がっている、との評価をいただいています。
- 一方で、昨年12月の第2回会合において、出来上がった仕組みをどう運用していくか、また、協力企業や地域との連携について、「まだ改善の余地がある」とのご指摘をいただきました。  
今回の会合において、それ以降に発電所で進めてきた、協力企業も含めた対話などの取り組みについてご説明する予定です。
- 今後も委員会からいただいた意見は真摯に受け止め、改善活動を進めてまいります。
- 本日、私からは以上です。